

業務の新聞

第67号

2020年 12月 15日

地本大会 報告 1

12/12、東京都南部労政会館において東日本ユニオン東京地本第9回定期大会を開催しました。

議案書の事前配布、間隔を空けての会場設営、換気、マイクなどの消毒などコロナ禍での「感染対策」を十二分に行いました。

大会冒頭の郷委員長挨拶では、「感染身近に感じる」「本部の示す第9次感染予防対策をしっかり取り組もう」「科学や技術の進歩に“人間”はついて行けるか」「変革 2027 のスピードアップ」「労働組合として共に語り考え行動する」などが話されました。また、来賓からは「今できることをしっかりやろう」「魅力ある組織をつくろう」などが話されました。

命と生活を守る！

「医療従事者の皆さん、ありがとう！」など街で目にしますが、コロナ禍で“ボーナスゼロ”“ボーナスカット”と言う医療機関が多くあることをご存じですか？「応援するなら金をくれ！」とついぶん前のドラマのセリフではありませんがこのままでいいんでしょうか？

政府や自治体の“援助金”すら職員に渡さないと言うような病院のケースもあるようです。

『命を守るために！』『生活を守るために！』私たちに何ができるでしょうか？

JRでもマスクをしない醉客の対応や“急病人への対応”など“新宿や田端”から具体的な指示はありません。その場その場で“仲間たち”が考え方行動しています。あなたはどうしますか？

地本大会 報告 2

大会出席者からは「会社は社員に冷たい、職場では管理者が冷たい」「TASC 何とかして」「年休付与に関して不公平感があり、職場のムードが悪い」「駅全般委託に関し“マイプロ”で受託会社と勉強するようだ」「委託に関して具体的な内容を質問しても“受託会社”が決めるとか言わない」「ひとつの事業体に様々な雇用形態の労働者は“働くこと”感情のあり大変だ」「グループ会社もプロパー社員の比率が挙がっている」「“赤字”となりこれからはコスト削減が大変だ」「JR本体は感染予防しているがG会社やP会社はマスクや消毒剤は配布されないようだ、リネンも毎日交換ではない」…など職場現実を基にした不安や疑問、問題提起を受けて支社に「申し入れ」を行います。

シッカリ感染予防！

『感染者が出た！』

「バタバタと職場では大混乱！」「現場管理者も大変だ！」「口調も副長も出てこないけど大丈夫？」など不安と疑問を話してくれた仲間がいます、彼は仲間たちの疑問や不安を少しでも解消するために「対応のフローを掲示すれば」と職場の管理者に問題提起しました。即答・即行動とはなりませんでしたが、後日職場の掲示板に“対応フロー”が掲出されました。放置せず問題提起した結果として現れました。

職場での感染予防に何が必要なのか？不足しているモノはないか？密になっていないか？などなど現場管理者は常に気にかけていること思います、PC画面では知りえない“貴重な声”を聞き逃さないようによろしくお願ひします。